

【第144号 二〇一六年十二月五日発行】

福音の園だより

平成18年度「高齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞

平成27年度「介護職員確保・定着のための優れた取組」表彰

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定

350・00016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎049・230・1111(☎)230・1112

「理念・方針説明

大切なものは、見えないうちに

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤卓巳

ミシン 作・いそのなほこ

久しぶりにミシンを動かしていると、

息子がその様子を近くで見ている。

そして、「なんで、針が上下に動くだけで

縫ぬえるの？」と言った。

わたしは、布をどかして蓋ふたを開け、

下糸を通すための釜を見せた。

いつだって、大切なものは、

見えないところにあるものだ。



たしかに、目立った仕事をしているのは、
派手に上下する針だ。

でも、縁の下の力持ちがいなければ、

針はただ、布に穴を開けていくだけにすぎない。

上のものと下のものが、タイミシングを合わせて

うまく協力することで、二本の糸がつながるのだ

息子の一言で、何の疑問も抱かずに使っていた

この古びたミシンが、

なにかこう、人生の師のように思えてきた。

〈出典・『サインズ オブ ザ タイムズ』2016年5月号〉

祝 二〇一六年 クリスマス

『きょうタビの町で、あなたがたのために、救い主
がお生まれになった。この方こそ主キリストです。』

新約聖書 ルカの福音書 2章11節

「ミシン」に心が響いたのは、聖書の中の一節、

「私たちは、見えるものではなく、見えないもの

にこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、

見えないものはいつまでも続くからです。」(コリント

第二の手紙四・18)を解説されたように思ったからです。

本年2月、「埼玉県・平成27年度介護職員確保・

定着の為の優れた取組事業所」表彰。これを受け5月、

福祉専門学校を会場に『従業者24名小規模施設にあ

つて、何故「10年勤続者13名表彰(2年)」を実現で

きたのか?』と題して事業講演。6月には、福祉介護

専門月刊誌 編集部から『介護職員が定着する施設が、

今、実践していること』のテーマで執筆依頼された。

11年間の歩みを紹介したけれども、的確に語れな

い(書けない)歯痒さを感じていた折、「ミシン」作者の

「いつだって、大切なものは、見えないところにあるも

のだ」によって、胸の内を言い当てられたのでした。

うまい文章の「書き方」は「生き方」に通じる

第140号で『SNS時代の文章術』(野地秩嘉著・講

談社+) 新書を紹介しました。「うまい文章の書き方」

の『おいしそうに感じる描写』の項、『読み手がおいし

いと感じる食品は総じて新鮮なもの、フレッシュなもの

だ。(中略) だから「新鮮さ」に狙いを定める。ただし、

これもまた「この野菜は新鮮だ」とストレートに書いて

はいけない。婉曲えんきよくに新鮮さを表現する』(175

〜176頁)を通して、うまい文章の「書き方」から、さら

に大切な「生き方」そのものを教わりました。

昨日は出来なかったことが、今日出来るようになる

「成長」著しい子供と違って、昨日まで出来ていたの

に、今日はもう出来なくなる「喪失」を重ねる高齢者。

「ストレートに『この野菜は新鮮だ』と書いてはい

けない。婉曲に新鮮さを表現する」――が、文章を書く

基礎的な約束事であったとしても、毎日の生活支援を

実践する上で、基礎的な約束事(ケアプラン・ケア目標)

は、むしろ「ストレートに新鮮さを前面に出して差し

上げるべきではないでしょうか!」と提言したい。

『生きる意欲を失い、希死願望がある方も少なくない。

生涯で最も困難な時期を支え、今一度「生きる力」を引

き出して差し上げることが私たちの最大の仕事」と云う

時、「みんな育てた野菜は新鮮だ。今朝咲いたお花は

素敵だ!」と体感していただく。今日一日を生きる力

の源となる「新鮮さ」に狙いを定めて取り組んでいる

のが「園芸療法活動」。園芸活動を「療法」として狙い

を定めて取り組む時、もはや単なる「土いじり」では

なくなりません。「生きる力」を引き出して差し上げる

「希望への支援の実践」が実現いたします。

御礼

馬鈴薯・玉ねぎ・カボチャ・澱粉

〇〇 農園様 (北海道 共和町)

